

第21回男子アジア選手権

開催日	2024年1月23日	会場	HALIFA SPORTS CITY HALL		
試合	準決勝				
チーム名	スコア				チーム名
日 本	20	9	前半	11	17
		11	後半	6	
バーレーン					

No.	名前	得点	戦況
7	蔦谷 大雅	6	<p>準決勝の相手は地元バーレーン代表。昨年10月に行われたパリオリンピック予選では決勝で対戦。その試合で日本は勝利しオリンピック出場を決めたものの、近年、常に接戦をしているアジアの好敵手。会場は地元バーレーンファンで超満員。日本は完全アウェーの中での試合となった。</p> <p>日本はプレーメーカーに東江、北詰と徳田がバックコート、サイドに高野と蔦谷、ポストに田代の布陣。</p> <p>守備はGKに坂井、3枚目DFに玉川と田代、2枚目DFに徳田と高野、1枚目DFに蔦谷と北詰を配置した「6-0DF」でゲームスタート。カタル戦と同様に、今まで出場機会に恵まれなかった選手を中心にメンバーを編成して、パリオリンピックに向けた選手層の拡大を図りたいところ。</p> <p>試合開始、日本は北詰のブレイクスルーが決まり先制。バーレーンも、キャプテン99番ALSAYYADを中心に攻撃を仕掛けるが、徳田が好守を見せて抑えにかかる。日本はテクニカルエラーや退場者を発生させてしまい、前半15分で4対8の4点ビハインド。GK岡本がナイスセーブもあり、また、バーレーンが退場者を出している間に富永がミドルシュートを2本連続で決めるなど、日本は落ち着きを保ちながら徐々に追いついていく。日本は前半27分に吉田がレッドカード。しかし、玉川を中心に高い機動力で守り抜き、最後は玉川がポストシュートを決めて前半を9対11で折り返す。</p> <p>後半、玉川と部井久を3枚目ディフェンス、田代と徳田を2枚目ディフェンスに配置した日本のディフェンスが機能する。</p> <p>部井久のインターセプトから蔦谷の速攻、GK坂井のセーブから玉川の速攻で2連続得点。11対11の同点にする。GK坂井の好セーブもあり、試合はシーソーゲームの様相で後半15分で15対14のロースコアの展開。後半21分にフリースローからディスタンスシュートを決められるが結果的にこれが最後の失点となる。16対17の場面から泉本のランニングシュート、北詰のブレイクスルーで後半25分で18対17の逆転に成功。</p> <p>その後も玉川と部井久を中心に堅守。バーレーンに攻めの際を与えない。冷静さを欠いたバーレーンは2人が同時に退場を宣告される。好機を生かしたい日本は、残り2分で蔦谷が7MTとサイドシュートを連続で決めて日本は4連続得点。</p> <p>20対17で試合終了。日本は決勝に進出を決めた。</p>
9	杉岡 尚樹	0	
13	吉田 守一	0	
15	部井久アダム勇樹	2	
17	坂井 幹	0	
19	徳田 新之助	0	
20	渡部 仁	0	
21	岡本 大亮	0	
24	北詰 明未	3	
27	玉川 裕康	3	
33	東江 雄斗	0	
37	泉本 心	3	
40	富永 聖也	2	
41	田代 翔真	0	
43	榎本 悠雅	1	
44	高野 颯太	0	